

県境越え新素材開発

石川と福井の繊維企業が連携して行う新素材開発などに、両県が共同支援する今年度の新規事業が決まり、石川県庁で9日、報告会が開かれた。県内の採択企業の代表者は、谷本正憲知事に対し、消費者ニーズに応える商品づくりで北陸の繊維産業を活性化する意欲を示した。県境を越えた企業連携に自治体が共同支援する事業は全国初めてで、県は地方創生のモデル事例として力を入れる。

全国初の自治体連携支援

連携支援事業には、カシレーネ（かほく市）、サンコロナ小田（小松市）、ジヤテック（金沢市）、丸井織物（中能登町）を中心に、両県の複数企業が構成する4グループが採択された。各グループの試作開発、販

路開拓などに係る費用は、石川県と福井県が2分の1ずつ負担し、最高1千万円を補助する。

事業実施主体である繊維リソースいしかわの伊藤靖彦社長が採択企業を紹介した。谷本知事は、北陸の繊維企業を取り巻く状況の変化に触れ「繊維王国である石川と福井が強みを持ち寄って連携するのは自然な流れだ。市場ニーズに応える商品を生み出せば繊維産業はさらに強化される。国も注目しており、ぜひ成功させてほしい」と激励した。

カシレーネは第一織物（坂井市）、豊島繊維（永平寺町）と、撥水、防風などの機能と繊細な風合い、発色を兼ね備えた高級衣料用の伸縮生地を開発する。

採択の県内企業が事業説明

梶政隆社長は「胸襟を開いて連携し、加速度的に良い商材ができていく。国内外の有名ブランドに販売したい」と述べ、秋に都内で展示商談会を開くとした。

サンコロナ小田はコマテックス（小松市）、クレスト商事（福井市）と連携し、医療・介護用途に抗菌、抗ウイルス機能のカートンを開発する。小田外喜夫社長は「3社が持つ素材力、機能性、デザイン性を融合し、高度な消費者ニーズに応える」と意気込んだ。

ジヤテックはオリセン（かほく市）、フクセン（福井市）と共同で、軽量で汚れにくく、着心地が良いユニホーム生地を作る。番圭右専務は「1社ではなかなか前に踏み出せなかったが、補い合い、知恵を出し合って繊維企業全体の活性化につなげたい」と語った。

丸井織物はアサヒゴウセン（能美市）、ギャレックス（越前市）、吉田産業（鯖江市）と連携し、災害時やチームスポーツの際に着用するベスト状の衣服「ビブス」を手掛ける。宮本徹社長は「防寒機能や着脱のしやすさにこだわり、2020年東京五輪も見据えて販売したい」と述べた。

「繊維王国」石川、福井タッグ



福井の企業と連携した商品開発について、県内の繊維企業が説明した報告会 県庁